



『母の祈り』

— 凛として・しなやかに —

理事長・院長 黒瀬 真一郎

昨年の世相を表す漢字に「輪」が選ばれました。二〇二〇年東京五輪の決定、今もなお震災の余波が残る東北の球団が初の日本一を達成し、歓喜の輪が広がったことや、国内外で多発する自然災害への支援の輪などがその理由になったようです。

その一方で、十二月六日参議院本会議で特定秘密保護法案が強行採決されました。いったいなぜこれほど重要な法案を十分な審議を抜きにして性急に立法する必要があったのでしょうか。民主政治は市民の厳粛な信託によるものであり、情報の開示は、民主的な意思決定の前提です。「知る権利」が損なわれる恐れがあるこの法案は、民主主義原則に反するものであり、市民の目と耳をふさぎ、秘密に覆われた国、「秘密国家」への道を開くものと危惧せざるを得ません。第二次世界大戦中、国内の多くのキリスト教主義学校が厳しい弾圧下にあったように、広島女学院もその例外ではありませんでした。特に、一九四四年暮れから卒業生や在校生、教職員までもが宇品の憲兵隊に召喚・弾圧を受け、翌年二月二十五日の朝、突如数人の憲兵が学校に乗り込んで来て、四名の教職員が弾圧の矢面に立たされ、辞職に追い込まれた事実を忘れることはできません。

「国際・平和・文化都市」広島にある学校として、「かけがえのない生命を尊ぶ平和教育」を重視する広島女学院のミッション（使命）の真価が今こそ問われています。

二〇〇八年、本学院大学図書館に「栗原貞子記念文庫」が設置されて、昨年は栗原貞子生誕一〇〇年にあたり、一〇月には俳優山本學氏と学生による記念朗読会を開催しました。栗原さんの代表作「生ましめんかな」に込められた生命の尊厳・母の愛と祈りの偉大さを確認しました。

「なぜ女子教育か」とその意義が問われますが、女子教育が顧みられなかった明治の時代にキリスト教を礎とした女子人格教育が日本の教育において果たしてきた役割は多大であり、今後ますます求められるものであります。

「男性による競争社会が生み出した、戦争という手段で物事の解決を図ろうとする生き方に対して、女性は戦禍に傷つく幼児を保護することから物事を発想する。いったいどちらが歴史の目的にかなっているか」（ハンナ・アレンナ）の言葉が胸に響きます。

二万四千名余となる広島女学院の卒業生の「凛としてしなやかに」生き方は、その一二八年の歴史の上にあり、今の私たちに大きな共感と感動と示唆を与えてくれます。私は、教育の道を歩み続けて今年で五〇年の節目を迎えます。プロセスよりも結果や目に見えないものより目に見えるものが重視される社会にあって、聖書に立脚した女子教育をますます充実させなくてはなりません。

「平和を創りだす者は幸いである」。この聖句を心に刻み、「平和な社会を創造する女子教育」に努める同業者でありたいと願っております。



2013年12月23日 第29回広島女学院クリスマスコンサート・メサイア（指揮 星野 晴夫校長）

大学

「ふいに立って見るか。誰と共に歩むか」
— 2013年度秋季宗教強調週間(10月21日(月)〜24日(木))報告 —

今期宗教強調週間では火曜日「キリスト教の時間」講師として、生命山シユバイツァー寺の古川龍樹師のご紹介により、アメリカで無実の死刑囚の再審請求運動と死刑廃止運動に取り組む3名の方をお迎えした。その一人、フェルナンド・バミューデスさんは、後に冤罪とわかった殺人罪で、18年もの人生の大切な時間を刑務所に留め置かれる苦しみを受けた。「1991年の8月6日、僕の人生はめっちゃめっちゃになりました」

た。殺人の罪で突然逮捕されたのです。今から68年前の同じ日、一発の原子爆弾によってこの広島もまためっちゃめっちゃになりました。そのことについて心から申し訳なく思います。「かけがえのない貴重な日々を不条理に奪われてもなお、他者の悲しみに隣人として連帯しようとする姿に、その場にいた多くのものが心を揺さぶられた。

野泰博先生が、パンフルー卜制作・演奏者である香原良彦さんが奏でる音色にのせて、いまもなお苦しみと戸惑いのうちにとどめ置かれた被災地の状況を報告下さった。3・11は過去の出来事ではない。ここにもまた悲しみに隣人として連帯しようとする姿があった。月曜日チャペルの川本沙織さん・松永美咲さん(国際2年)による沖縄平和学習報告からは、知識として知っていたことがらに体験として出会うことから、大きな気づきと成長を得たことが伝わってきた。

木曜日チャペルの吉岡咲紀さん(国際2年)によるケニアおよびインド研修報告からは自らのフィールドを広げ行く中で、世界の課題の本質に気づき、無力感の壁にぶつかりながらも「一步を踏み出す」強い想いが伝わってきた。四つのプログラムの話者からそれぞれに、他者の痛みや想いに自らを重ね、隣人として共感・連帯する姿勢を学んだ一週間であった。(チャプレン 澤村 雅史)



第64回あやめ祭、華々 in living color

大学祭は、大学生の大学生による大学生のため、の一大イベントです。学生はこの日のために1年間かけて、企画から当日の運営・後片付けまですべての業務を自分達で仕切りま

細かい段取りを見事にやり遂げて今年も楽しいあやめ祭が開催されました。実行委員でなくても本学生には、在学している間に何らかの形で1度は参加してほしいと思います。サークル・クラブ、ゼミ等の仲間

見に来る、等何でもよいのです。来年もあやめ祭を盛り上げていきましょう。多大なる援助をいただいている大学協力をはじめご来場いただいた保護者の皆様、ご協賛いただいた企業



優秀論文賞を受賞!

一般社団法人日本痛風・尿酸代謝学会の平成25年度優秀論文賞に助手の神原さん・三浦教授・瀬山教授の共著論文「高尿酸血症・痛風の食を通じた予防策の検討」が受賞されました。研



究は長年、瀬山教授と神原さんの二人三脚進めてきましたが、昨年から食品科学が専門領域の三浦副学長が加わり、最強の研究メンバーが組織されました。今後、疾病予防につながる新たな食事療法の一步になります。

栄養学博士取得

管理栄養学科助手の神原彩さんが研究努力され、栄養学博士を取得しました。



生活デザイン・建築学科
 演題：OGを囲む会
 講師：本学卒業生6名
 日時：2013年11月27日(水) 15:00～
 場所：人文館303教室

管理栄養学科
 演題：現代医学と東洋医学の考え方
 講師：櫻井 正智 先生
 (北里大学東洋医学総合研究所)
 日時：2013年11月6日(水) 15:00～
 場所：人文館302教室

幼児教育心理学科
 演題：ストロー笛の楽しいコンサート
 講師：神谷 徹 先生
 (大阪音楽大学非常勤講師)
 日時：2013年11月30日(土) 13:30～
 場所：人文館303教室

(教学課長 入江 直子)

第13回広島女学院 クリスマス・ツリー点火音楽礼拝報告

待降節(アドヴェント)が始まる11月25日(月)の夕べ、第13回広島女学院クリスマス・ツリー点火音楽礼拝が、ランバスホール前広場にて開催された。前日から雨で開催が心配されたが、当日午後からは願いが叶うかのように晴れわたった。

学生、教職員、ゲインス幼稚園児と保護者、一般来場者の約300名の参加者を迎えた。

受付で配られたキャンドルの灯りを手に、讃美歌112番「もろびとこぞりて」を皆で合唱して開始された。続いて、前田美和子宗教主任による聖書朗読(ルカによる福音書2章1節〜20節)とお祈りがあり、讃美歌第二編219番「さやかに星はきらめき」を合唱した。

点火式では、参加者が一斉に10・9・8…とカウントダウンしながら、ゲインス幼稚園児、学生、学長によって点火スイッチが押され、ツリーが点火された。暗がりの中を明るく美しく照らすツリーを眺める中で、ゲインスチャペルのカリヨン「さやかに星はきらめき」が流れた。



長尾ひろみ学長によるメッセージは、手にしたキャンドルカップの透明色が、人間が犯す罪によって少しずつ黒色に染められることに例えられ、再び透明になるためには、人間の罪を赦してくださる存在が必要であること、そのために、神がイエス・キリストをこの世に遣わされたこと、クリスマスはそのイエスの誕生を祝う日であることをお話された。

続いて、アンサンブルエスプワールと聖歌隊による「まきびとつじを」「ひいらぎかざろう」、吹奏楽部による「もろびとこぞりて」「もみの木」が演奏された。また、ゲインス幼稚園

園のこどもたちの歌「かみさまのおやくそく」「アドベントラント」「We wish you a Merry Christmas」が合唱された。

最後に、皆で讃美歌109番「きよしこの夜」を合唱し、祝祷によって終了した。

ツリーは、12月25日(水)まで毎日午後5時30分から8時30分点火された。

(宗教センター事務課長 小田 長)

第31回公開セミナー 「伝統としての文化・文学―日仏英米を通して―」

2013年度公開セミナーが10月5日から11月2日にかけて実施された(4回)。今年度は「伝統としての文化・文学」を主題とし、国際教養学科の教員が講師を務めた。第1回の佐藤茂樹教授は、「宇治拾遺物語」の昔話」と題して、身近な「鬼に瘤取らるる事」「雀報恩の事」を題材として、事実と事実の伝承と文学化された「説話」の描写を解説した。第2回の前川裕治教授は、「守られる伝統/挑まれる伝統」と題して、「伝統」とは何かと問うた後に、黒人に関する映像を用いながらアメリカ文化に常在する人種問題を歴史的に考察し、アメリカの

2013年度ゲインス 学術奨励賞受賞者

- 【文学部】
 - 日本語日本文学科 菊本 麗
 - 英米言語文化学科 山下 香葉
 - 幼児教育心理学科 高田 真衣
- 【生活科学部】
 - 生活デザイン・情報学科 桑本 麻央
 - 管理栄養学科 金野 智子

ゲインス杯高校生 英語スピーチ・コンテスト2013

第7回ゲインス杯高校生英語スピーチ・コンテストが11月10日(日)午後1時から本学ゲインスチャペルで開催されました。今年はいくまでになく多くの方が関心を寄せてくださり、広島県だけでなく、兵庫、熊本、香川各県の参加者も含めて、全部で18高校から25名の応募者がありました。この中から事前審査で15名の生徒さんが選ばれ、当日は「平和のために私ができること」「現代社会に生きる女性として」「地球環境を守るために」のいずれかをテーマに英語のスピーチを競いました。本学長尾ひろみ学長、ステイブン・リーパー客員教授、コート

2013年度秋季講演会報告

- 日本語日本文学科
演題：コミュニケーション重視の日本語教育―初対面異文化間コミュニケーションを通して考える―
講師：三牧 陽子 先生(大阪大学名誉教授)
日時：2013年12月7日(土) 14:00~
場所：人文館302教室
- 英米言語文化学科
演題：ことばのちから
講師：河内 清志 先生(本学教授)
日時：2013年11月27日(水) 13:00~
場所：ヒノハラホール5階アセンブリーホール

ニー・ローレンス専任講師が審査を担当し、昨年に引き続き広島インターナショナルスクールからマーク・エクストン校長を特別審査員としてお迎えしました。厳正な審査の結果、1位に横井里月さん(ルーテル学院高校3年)、2位に中居薫花さん(神戸女学院高等学校2年)、3位に小川真里奈さん(福山誠之館高校2年)、審査員特別賞に篠岡はなさん(清心女子高校3年)が選ばれ、表彰を受けました。コンテストの準備や開催にあたり、ご協力いただきました皆さまに心から感謝申し上げます。

(国際教養学部学部長 末永 航)

中学・高校

中高合同文化祭

中学



11月3日、中高合同文化祭がありました。私にとって3回目の文化祭。今年は五人委員として参加しました。五人委員のブースではカラフルな折り紙にお客様の「今、頑張っている事」を書いてもらい、1枚の大きなモザイク画を作りました。その中には「女学院に入るために毎日勉強頑張っています」と受験生が書いてくれているものもあり、思わず顔がほころぶと同時に、もう3年たったのか、と懐かしい気持ちになりました。そして浮かびあがった言葉、「NO GAP INNO PAIN」は努力なしでは何も得られない、という意味で受験生に向けて選びました。しかし先生をはじめ事務の方々や

保護者の皆様、そして私達生徒が一つになり努力したからこそ文化祭を成功させることができました。今思えば、私達に向けての言葉のように思えます。

文化祭までの道のりは決して楽しい事ばかりではありませんでした。しかし振り返ってみると達成感でいっぱいです。改めて顧問の先生や五人委員のメンバーや、携わって下さったすべての方にありがとうと言いたいです。今回の反省点をふまえ、来年はもっともっと、お客様も私達も楽しめる文化祭を作っていきますよう！

高校

守下 綾乃

今回の文化祭も、無事終了することができました。生憎の雨ではありましたが、今年も沢山のお客様に来ていただくことができ、嬉しい限りです。

今回は前年度と同様に1日だけの文化祭とし、クラス発表も縦割りで開催しました。A組はパフォーマンス、B組はお化け屋敷、C組は縁日、D組は喫茶、E組は迷路をそれぞれ高校1年生と2年生が協力しあい数カ月かけてみんなで作り上げていきました。どこも

クオリティが高く、四六時中賑わっていたように思います。みなさんの涙と汗と努力の結晶が実ったものとなったのではないのでしょうか。

更には今年から体育祭応援団や文化祭にテーマを設けることとなり、今年の年間テーマは「四季」となりました。ポスターをはじめ、クラス発表や校内装飾など、様々な場面で四季を感じる事ができたと思います。

前年度からの大幅な改革に引き続き、昨年得た改善点を基にしてよりいっそうお客様に楽しんでもらう文化祭に仕上げる事ができました。まだまだ足りない点も多々あったとは思いますが、来年度に引き継ぎよりよい文化祭にしていきたいと思えます。

また、教職員や事務の皆様、並びに保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。皆様の支えがあったこそ仕上がった文化祭です。あたたかく私たちをみまもってくださいありがとうございます。

生徒の皆様も、お疲れさまでした。今回の文化祭を通してそれぞれが得たものを大切にして下さい。

(高校生徒会執行委員長

國本 颯稀)

高2沖縄修学旅行

10月初旬、3泊4日の日程で沖縄に行ってきました。台風の影響で変更を余儀なくされた部分もありましたが、事前学習から始まった修学旅行は全行程を無事に終えることができました。1学期の事前学習(戦時中、戦後の沖縄など)に始まり、旅行直前には首都大学東京の渡邊英徳先生をお招きし、「沖縄アークイブ」を使いながら、「沖縄を訪れる意味」を再確認しました。

現地ではチビチリガマの前で比嘉涼子さんがガマで起こった悲劇だけでなく基地問題など、問題の深層をえぐるような話をして下さいました。

実際の入った糸数壕では、68年前の惨劇の様子をガイドさんから聞き、沖縄学習の意義を体得できました。平和祈念資料館などでは、展示物などを一つ一つ丁寧に見学する生徒の姿が印象的でした。事前学習の学びが現地を訪れることで初めて結実し、本当の意味での問題意識が芽生えたようです。

旅行の後半では観光地としての沖縄を楽しみました。世界遺産の首里城や座喜味城跡を見学し、一部内容を変更しましたが、体験学習も無事実施できました。国際通りでも思い思いに楽しい時間を過ごしていました。

毎朝の早天礼拝のひと時を知り、とても衝撃を受けました。また、語り部さんの被爆体験を聞いて、「未来の平和は私達が守っていく」のだと改めて思いました。

4日間ではまだまだ足りない、もっと沖縄のことを知りたいと思いつつ、帰途になりましたが、多くの方のご協力のおかげで、無事旅行を終えることができました。ありがとうございました。

(高2学年主任 高見 知伸)

中3長崎研修旅行

私たち中学三年生は長崎へ研修旅行に行きました。一日目はクラスで原爆資料館、岡まさはる記念館を回りました。資料館では広島とは一味違う展示を見た

り、岡まさはる記念館では、今までは知らなかった加害者としての日本

内を見学します。浦上天主堂や如己堂など平和遺構とグラバー園や出島などの史跡を、地図を見ながら回りました。実際に見て長崎の歴史を肌で感じて、とても充実した一日でした。



最終日のハウステンボスでは、色々なアトラクションに乗ったりお土産を買ったりと、楽しい時間を過ごしました。

この旅行で私たちは、広島にいただけでは分からなかった沢山の事を学びました。この経験をこれからの生活に活かしていきたいと思えます。

(中3 折本 鞠香・幸城 真樹子)

キリスト教 強調週間

11月11日(月)～16日(土)の1週間は、キリスト教強調週間でした。今年度の主題は「神が創られたあなたの権利」。12日の特別プログラムの特講演には、フォトジャーナリストの大藪順子(おおよぶのおこ)さんをお招きしました。

大藪さんは、アメリカでフォトジャーナリストとして活躍しておられた1999年に性暴力の被害を受け、抑鬱状態になります。しかし、通っていた教会の牧師の助言で、服役中の犯人に手紙を書いたことがきっかけで精神的に解放されます。そして、自分と同じように傷ついて生きていく人たちの姿を写真で伝える活動をはじめられました。大藪さんのプロジェクト「Stand」は、全米の大学やギャラリー、上院議会議堂などで展示され、反響を呼び、アメリカのドキュメンタリー番組「もう恐れない 女性への暴力をとめよう」などにも出演されました。

中学生には難しいテーマかもしれないと危惧しましたが、生徒たちは大藪さん

のつらい体験とその後の活動についてのお話、大藪さんと同じように傷ついた人たちのことなどを伺って、力づけられたようです。

キリスト教では、「他人(隣人)の権利」を守ることはよく学びますが、「自分の権利」を考へることが意外と少ないのではないのでしょうか。他人の権利と同じように、自分の権利も大切にするという、人生において不可欠の姿勢を、大藪さんという方を目の前にすることで感じ取ることができたように思います。

期間中に行われた「昼の集い」(生徒主催)や学年別活動からも、日頃学ぶことのできない多くの大切なことを得ることができました。

(宗教育委員会)

矢野 一郎



女学院 クリスマス

名称を改めて「女学院クリスマス」となって2年目の女学院クリスマス礼拝

は、12月21日(土)の午後6時から、中高のゲインズホールで行われました。今年の礼拝は音楽を中心に構成し、説教者として大学の人間生活学部・文学部チャブレンの前田美和子先生をお迎えしました。高校音楽選択生徒、音楽部、吹奏楽部、オーケストラ同好会、マンドリン部、中高YWCA部、放送部、高校宗教委員、そしてOGの皆さん

が協力してくれました。また、前田先生が絵本を紹介しながら語ってくださった優しいメッセージが心に染み入りました。

在校生や保護者はもちろん、久しぶりに母校を訪れた卒業生、これから女学院中学を受験する小学生の姿も目立ちました。世の中が大きく動こうとして「不安を抱い」(マタイ2:3)ている私たちに、変わらぬ原点を示してくれるのが礼拝です。特に、誰でも参加できるクリスマス礼拝は、卒業生にとつて自分の出発点を確認できる場としての役割も果たしているよう

です。多くの方たちのご来場、ありがとうございます。(宗教育委員会)

矢野 一郎



校地、ホール トイレの改修

わりのデザインとなっています。また、ゲインズ

中学校舎北側グラウンドのインターロッキング工事をしました。大雨の時にグラウンドの土が道路へ流れ出ていたため、このたび、インターロッキング舗装をおこないました。合わせて桜並木に沿ってブロック工事を施し、土が落ちてこないようにしました。緩やかなカーブは、美術の寺本道生先生にお願いした、こ

また、ゲインズホールの女子トイレも改修しました。床を乾式にし、洋式を増やし、壁紙を変え、照明も明るくし、清潔で使いやすいものになりました。それにともない、従来あつた障がい者用トイレを多目的トイレに改修しました。

現在北側グラウンドの植栽を工事して



生徒の活躍

◇高校音楽部

*第66回全日本合唱コンクール
全国大会

高等学校A部門 銅賞

◇高校放送部

*第24回広島県高等学校放送文化コンクール県大会
朗読部門 個人・優秀賞

前原加奈子(2-1A)

(来年の全国高等学校総合文化祭に出場決定)

◇第9回アイテム写真コンテスト「はたらくすがた」
佳作 岡村由海(2-1B)

◇ヒロシマアーカイブ

*第40回「日本賞」
優秀作品

(クリエイティブ・メディア
ア・カテゴリー次点)

◇第82回全国書画展覧会
(書の部)

金賞 佐々木瞳(1-14)

◇第52回全国高等学校生徒
英作文コンテスト
優秀賞 木村友美
(2-1B)

入選 森 杏樹(1-1A)



幼稚園

豊かな秋をありがとう

11月、幼稚園では収穫感謝礼拝を行いました。

収穫の季節を迎えた園庭にはカリンがたくさん実り、子どもたちは実を集めたり、友だちにプレゼントしたりして楽しみました。そうして集めたかごいっぱいのカリンは、各クラスで砂糖に漬けてカリンジユースにしました。

他にも、畑で育ったサツマイモの焼きいもや野菜スープ、自分たちで植えて収穫したお米など。神様からの恵みをおいしく食べる体験から、神様が一人ひとりを守り育ててくださる喜びを感じ、クラスのみんなで祈りしました。

(幼稚園 津川 育美)



Visionsをお迎えしてころぼっかぼかジャズコンサート

ひろしま美術館

秋も深まった11月下旬、年長児はひろしま美術館へ出かけ本物の美術作品と出会ってきました。鑑賞後は広島女学院大学教授三樹正典先生による「ピカソになろう!」というワークショップもいたしました。一人ひとりがキャンバスを持ち、描画活動を通して思いの表現を楽しみました。

(幼稚園 久保木 裕子)



おいしいスープができるかな



クリスマス

幼稚園では11月末よりアドベントに入ると、各クラスでアドベントクランツを囲み子どもたちはイエス様お誕生の話を聞きます。アドベントカレンダーの小さな窓を一つ一つ開けてクリスマスを待つ日々は喜びでいっぱいです。また、「お母さんにプレゼントを作っていること言っていないから、びっくりするかもしれないな。」「喜んでくれるといいね。」と大好きな家族のことを思いながら、心を込めてプレゼントも作ります。

こうして迎える幼稚園のクリスマス。親子でプレゼント交換をした後は、年長児ページェントによる礼拝のときをもちます。子どもたち、保護者が心合わせてクリスマスをお祝いする温かい日となりました。

(幼稚園 梅田 桃香)



日本福音ルーテル大江・宇土教会 立野泰博牧師

母の会講演会

11月20日、すっかり秋色に染まった幼稚園では、保護者が集い、女学院と縁の深い立野泰博先生の講演会の機会を持つことができました。ピアノ・歌・そして、パレスチナや東日本で計り知れない困難を強いられた人々の思いが詰まったパンフルートの旋律、保護者のすすり泣きが交じる中、講演は進みます。

自ら現地に赴かれた立



クリスマスページェント

野先生のパレスチナでのイスラエル軍による分離壁と、子どもたちのほとんどが大人になれない現状。東日本大震災での想像を絶する現状と人々の苦しみ。そして、遠く離れた二つの地に共通する『広島は希望』という言葉に、広島に住み、子育てをしている私たちに何ができるかということを考えることの重みを感じました。

(幼稚園母の会 大山 ちはる)

事務局

2013年度
全学院研修会報告

5月末、全学院研修会企画委員として、古重歌織教諭(幼稚園)、伊勢崎智恵教諭(中高)、森脇正樹氏(中高事務)、永野晴康専任講師(大学)、宇都宮真紀氏(就職課)、中塚成美氏(教務課)、山内(大学・准教授)の7名が指名されました。

最初は、何をすればいいのか、どのような方法を取ればいいのか、戸惑うことばかりでしたが、アンケートなどで教職員のみなさまからのご意見を賜わり、少しずつ方向性が定まってきました。そして、最終的に今回のプログラムに落ち着きました。

夏の暑い時期に、委員のメンバーと石本俊憲氏(法人事務局事務主管)とで、中高や大学に集まり、何度か会議を持ちました。そのために「全学院研修会とは何のために存在するべきなのか」という問題について考えさせられました。例えば、「いくら研修をしても、それが未来に続かないのならば意味がないのではないかと」という意見があります。たとえ参加者が研修会で将来のために真剣に議論を戦わせ、よいアイデアやアドヴァイスを提案したとしても、後日それらを運営に取り入れてもらえなければ時間とエネルギーの無駄遣

いだという考え方です。確かにそうかもしれない。しかし、研修会で学院が抱える問題について真剣に考える機会をもつことは、危機意識を共有する点で有意義ですし、学院を改善するための「次のステップ」につながる「可能性」も秘めています。今回は学院にとって厳しい時期の開催だったこともあり、特にその「可能性」に賭けてみました。

プログラムを遂行するにあたっては、大変多くの方にお世話になりました。スピーカーをお引き受けくださった黒瀬真一郎理事長、高田憲治園長、中麻奈美中高広報部主任、末永航国際教養学部長、財務関連の質問に応じてくださった畠山重信財務理事、林秀明経営

企画監、礼拝を準備してくださった刀祢館美也子中高聖書科主任、平常の業務の合間を縫って集まり作業をしてくださった委員のメンバー、会議にも参加して下さり様々な形で企画をサポートして下さった石本氏と松原雅恵氏(法人事務局)、前日の会場設置や当日の受付などをしてくださった庶務課と総務課のみなさま、そして当日参加して下さった教職員のみなさまのご協力なしには、今回の研修会は成立しませんでした。心よりお礼申し上げます。なお、委員会がスタートした時から会議に加わって下さり、病床からも委員会の活動を応援して下さっていた石本氏が、とても悲しいことに10月22日深夜にお亡くなりになり

ました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。11月に質問シートへの回答を印刷・配布して、企画委員会としての私たちの仕事は終了しました。今年度の研修会が、今後の広島女学院の「次のステップ」に貢献できることを心より願っています。

(山内理恵)



日時 2013年10月1日(火) 9:00~12:30 (8:30受付開始)
場所 広島女学院大学ヒノハラホール5階 アセンブリー・ホール

2013年度広島女学院全学院研修会
生き残りをかけた各校部の課題と取り組み
——永続する広島女学院を目指して今われわれがやるべきこと——

プログラム

8:30 受付開始
9:00 開会礼拝「やり直す力」中高聖書科 刀祢館美也子
9:15 開会のあいさつ 院長 黒瀬 真一郎

第一部

9:20-9:40 広島女学院の歴史と現状・今後の展望(財務を含む)
(幼稚園・中高・大学のつながり) 理事長 黒瀬 真一郎
9:40-10:10 質疑応答

第二部

10:15-10:35 (幼稚園) 保育の充実に向けた最近の取り組み 園長 高田 憲治
10:45-11:05 (中高) これまでの入学定員確保の取り組みと広報戦略 広報部主任 中 麻奈美
11:05-11:25 (大学) 国際教養学部の課題と取り組み 国際教養学部長 末永 航
11:30-12:20 質疑応答
12:20-12:30 閉会のあいさつ 院長 黒瀬 真一郎

**広島女学院大学 聖歌隊(クワイヤ)&オルガニスト
教会コンサート2014**

日時: 2014年3月8日(土) 開場13:30 開演14:00
場所: 広島流川教会礼拝堂(広島市中区上鞆町8-30)
駐車場のご用意はありません。

指揮: 玉理 照子(広島女学院大学オルガニスト)
曲目: 第1部 賛美歌にもとづく合唱曲
第2部 折りの合唱曲

問い合わせ先: 広島女学院大学宗教センター (082-228-0415)

12月23日に恒例の広島女学院クリスマスコンサート・メサイアを広島女学院中学高等学校グレースホールで開催しました。

メサイアは 第29回を 迎えました

今回は、これまでにない出演者の多さのため一部の同窓生をお断りをするほどとなり申し訳なく思います。合唱は123名、オーケストラは49名。ソリストは去年と同じソプラノ乗松恵美さん、アルト貞丸祐子さん、どちらも同窓生。他にバリトン折河宏治さん、テノール頃安利秀さんでした。オルガン玉理(生田)照子さん、チェンバロで去年まで出演下さった福原(和田)之織さんが都合で欠席のため、中学高等学校音楽教師長谷川史先生が演奏してくださいました。指揮者でもある星野晴夫校長先生、大学の英語教師ロナルド・クライン先生や中高から他に4名の先生方の参加があり、広島女学院色が益々、濃くなっています。広島女学院の厚さに喜びと感謝が増してきました。

また、男声が少ないことから、出演されている男声達のご協力で増加傾向にあります。そのための応援である関西学院大学グリークラブOBで結成された「メサイアを歌い続ける会」から前回より多い11名の応援を得ました。彼らは神戸女学院同窓生と一緒にメサイア全曲を歌っておられます。これらは今田寛前学長、長尾ひろみ学長のご協力による成果でもあります。

本広島女学院メサイアは広島交響楽団創設に尽力された元エリザベト音楽大学学長井上一清先生のご指導の下、黒瀬真一郎理事長、院長の方針を受け開催されています。平和のシンボルとして、同窓生が家族で聴く演奏会として皆様が集って下さいますよう祈ります。ありがとうございます。

(メサイア・マネージャー 玉理英治)

THE MESSIAH
G.F. HANDEL
第29回クリスマスコンサートメサイア

2013.12.23(土) 入場料
開演 17:00 開演 17:30

広島女学院グレースホール

広島女学院大学音楽部
〒730-0192 広島市中区上鞆町8-30
広島女学院大学音楽部 音楽部 音楽部

広島女学院大学音楽部
〒730-0192 広島市中区上鞆町8-30
広島女学院大学音楽部 音楽部 音楽部

広島女学院大学音楽部
〒730-0192 広島市中区上鞆町8-30
広島女学院大学音楽部 音楽部 音楽部

広島女学院大学音楽部
〒730-0192 広島市中区上鞆町8-30
広島女学院大学音楽部 音楽部 音楽部

会議報告

第123回理事会

2013年9月27日(金) 14時より頌栄館会議室において開催。第15回常任理事会報告の後、議事に入った。

選考委員会、教諭会から推薦のあった星野晴夫現校長を次期中学高等学校校長として選任した。任期は2014年4月1日から2016年3月31日まで。

ゲーンズ幼稚園の「こども園」構想については、常任理事会の付託事項として今後の継続課題とした。また、藤本黎時常任理事・委員長より大学入学生定員確保対策委員会第2次報告が行われた。

10月定期評議員会

2013年10月19日(土) 10時よりヒノハラホールにおいて開催。諮問事項はなく、大学、中学高等学校、幼稚園の諸施策について管理者より報告を行った。また、今後の評議員会のあり方などについて評議員の意見を伺った。

第124回理事会

2013年11月22日(金) 14時より頌栄館会議室において開催。第16回常任理事会報告(幼稚園バス増便等審議)の後、審議に入った。

次期大学学長として、選考委員会、教授会から推薦のあった湊 晶子氏(前東京女子大学学長)を選任した。任期は2014年4月1日から2018年3月31日までの4年間。

審議事項は、規程の一部改正、人事の常任理事会付託を承認。各校部より提出のあった2014年度事業計画案、2014年度予算案については継続審議とした。

文部科学省私立大学等改革総合支援事業に係る選定・選考結果について、広島女学院大学は、大学教育質転換型、地域特色型、多様な連携型の三つのタイプにおいて選定された。また、これに伴い教育・研究設備等補助金申請2件が採用されたとの報告があった。

人事

就任

Steven Leeper 大学客員教授(平和教育推進担当学長特別補佐) (2013・9・1付)

Anna May 大学助手(語学センター)

(2013・9・20付)

退職

柳川あゆみ

大学院人間生活学研究科事務室(特別嘱託職員) (2013・8・31付)

森 万佑子

大学院人間生活学研究科事務室(特別嘱託職員)

教職員動静

11月30日受付分まで

召天

益田 絃志様

(保元佳代子 法人事務局総務課事務職員(ご尊父)) (2013・8・12)

中山 秋高様 (中山美香 中高教諭(ご義父)) (2013・8・15)

石本 俊憲様 (法人事務局事務主管) (2013・10・23)

岩内 一郎様 (大学名誉教授) (2013・11・8)

澤村けい子様 (澤村雅史 大学国際教養学部准教授(ご母堂)) (2013・11・16)

佐藤 光義様 (中高旧技術職員) (2013・11・18)

誕生

透君

(藤原雅也 法人事務局総務課事務職員(ご子息)) (2013・8・29)

香澄ちゃん (水津惇子 法人事務局財務課事務職員(ご長女)) (2013・11・18)

寄附

11月30日受付分まで

創立記念祝

眞名志輝雄様

100,000円

高等教育充実のために

(株)アポエンジニアリング様

1,600,000円

ゲーンズ幼稚園50周年記念

御祝

御本かすみ様

5,000円

中高教育充実のため

50,000円

第五回生同期会様

20,000円

安宅弘展様 星野晴夫様

伊藤 望様 川上久美様

山縣 泉様

5,000円

澤村雅史 様

一般

今石牧子様

10,000円

ボランティア活動費として 山本 學様 86,900円

ボランティア活動のため 山本 學様 14,260円

現物寄附 (公財) 日本教育公務員弘済会 広島支部様

中学校へ書籍(39冊)、高等学校へ書籍(46冊)

小笠原恵美子様

絵画5点 (Untitled 1966、例えば、1つの口のある扉、CHU(番外) 10、間その七、Subditio de(B))

佐々木怜子様

絵画2点(実験室「小さな命」、春のいざない)

日誌抄

10・1(火)

127周年創立記念日 全学院研修会

10・2(水)

大学院・大学秋季卒業礼拝

10・5(土)

幼稚園運動会

10・8(火)

公認会計士監査事務協議会

10・10(木)

学院運営協議会

10・13(日)、14(祝)

あやめ祭

10・19(土)

定期評議員会

11・3(日)

中高文化祭

11・11(月)

公認会計士監査事務協議会

11・14(木)

予算委員会

11・21(木)

学院運営協議会

11・22(金)

理事会

12・12(木) 事務協議会

12・16(月) 公認会計士監査

12・19(木) 学院運営協議会

12・20(金) 常任理事会

12・21(土) 幼稚園終園日、クリスマス礼拝

中高終業日、クリスマス礼拝

12・23(月・祝) 第29回クリスマスコンサート・メサイア

12・24(火) 大学クリスマス音楽礼拝

編集後記

悪臭を放つことで知られているカメムシをよく見かけました。秋に多く発生すると大雪が降ると言われていますが、根拠はないようです。寒さに負けず健康に過ごしたいものです。ちなみにカメムシがあつた強烈な臭いを発するのは、外敵への威嚇と仲間への危険を知らせる役目もあるそう。なかなか仲間思いですね。自然災害の多い近年、被害に遭われた地域の方々に心よりお見舞い申し上げます。困難な状況にあつても神様がいつも傍にあって守り導き、新しき年も神様と共にある喜びと感謝をもって過ごしていきますよう。

(幼稚園 久保木 裕子)

広島女学院同窓会会報

新年を迎えて



同窓会会長 大矢みどり

同窓生の皆様、新年明けましておめでとうございます。広島女学院同窓会も既に二万四千人余の卒業生を擁するようになりました。全国はもとより、遠く海外に至るまで大勢の卒業生がその地に根を下ろし、それぞれの地で活躍しておられます。私も各支部、各地区会に参加させて頂き、そこで素敵な先輩方、後輩方にお会い致します。皆様明朗で自由な精神を持ち、生き生きと活躍されている様子に感動を覚えます。卒業生の皆様にお会いすると、多感な時代に、キリスト教の教えのもとに受けた教育が現在の私達の礎になっているように思います。

会に貢献し、母校に隆盛を囃り、神の栄光を顕す事」とあります。その目的のもと、同窓会では母校への支援と共に会員相互の親睦を図るため4月にホームカミングデー、8月には平和祈念式、11月にはバザーを行っております。また、各地区、各支部に於いても様々な集まりがもたれております。同窓生の皆様には、日頃から同窓会活動にご理解頂き多大なご尽力を賜っておりますが、どうぞ引き続きのご支援をお願い申し上げます。そしてまた、是非、各行事にご参加頂き、旧交を温めると共に新しい出会いをして頂きたいと願っております。

異常気象による様々な災害や、社会の情勢等不安の中にあって、卒業生の皆様が多岐にわたる価値観を持って未来を支える子供達を育て、家庭や地域で活躍される事はとても大切な事のように思われます。2014年が、どうぞ平和で穏やかな年でありますように願いますと共に母校の発展と皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

支部会・地区会だより

山口支部

山口東部地区会

6月2日 鵜飼船 参加者18名

今年は大矢同窓会長をお招きしての錦帯橋の昼鵜飼でした。あいにくの雨の中、郷土の伝統文化に触れながら自己紹介し、昼食をとり、久々の再会や初参加の方々との交流を喜び合いました。



山口西部地区会

6月22日 葉香亭 参加者12名

梅雨の晴れ間に、新旧支部長をはじめ、昨年に倍する出席を得て開かれました。讃美歌や校歌を佐久さんのギター伴奏で歌い、思い出話に花が咲き、気分は10代に。時よ止まれ!

山口中部地区会

10月12日 亀井邸 参加者5名

同窓生の亀井さんの、まるでホテルバイキングの様な本格派手料理に舌鼓を打ちながら、近況報告にも花が咲きました。少人数ながら時が経つのも忘れるほど楽しい会となりました。

りました。(森戸順子 大英11回)

福岡支部

10月19日 一椿 小倉本店 参加者15名

14年ぶりに北九州市で開きました。初参加の5名を交えて創作料理を楽しみながら、自己紹介や近況報告等でゆったり過ぎました。



中部ブロック

11月27日

名古屋マリオットホテル華雲 参加者13名

初参加の方も同窓生のよしみですぐに打ち解け、本音トーク炸裂で年金、墓、孫、体調、退職後のご主人の存在などの身近な話や懐かしい話で、あつという間の3時間でした。元気なトークに心の底から笑いがあり、改めて同窓生の存在意義をお互いに感じ合いました。



広島地区

10月4日、広島アンデルセンにて広島地区会を開催しました。「八丁座」のオーナー 蔵本順子さん(文日3回)をお招きし、単館映画館の存続のために活躍されている話を聞きました。映画を生業とし、和服を粹に着こなす「ハンサムウーマン」でした。(吉光光江 高25回)



12月2日 コーラルホテル(宮島口) 参加者19名

第一部は讃美礼拝を、第二部は昼食を共にしながら、楽しい交わりの時を持ちました。初参加の方は3名でしたが、そこは同窓のよしみで、すぐに和やかな雰囲気になりました。(内山豊子 高8回)



関西ブロック クリスマス祝会

12月7日 大阪東十三教会 参加者39名

第一部はクリスマス礼拝で、斉藤成二牧師のお話に聞き入り、心が穏やかにになりました。



第二部はティーパーティーで、ゲームやクイズで盛り上がり、話の華も賑やかに咲いて、和気あいあいとした会になりました。また、当日の小さなバザーにも、たくさんのご協力を頂き感謝しております。(岡本裕子 高28文英10)

佐伯地区 クリスマス祝会

12月2日

コーラルホテル(宮島口) 参加者19名

10月14日、本部より4名が出席した。福井達雨先生、秋津恵子さん(短大25・高校24回)との再会は勿論、生徒さん達の「兄弟姉妹の会」による手作りのおもてなしを頂戴し、学園の仲間達全員による「プレーメンのおながくたい」の劇を千三百人の方々と一緒に拝見し本心に心温まる時を過ごした。



止揚学園創立50周年記念の集いに参加して

お元気ですか

一生分の充実期

元中高英語科
菱川 慈子



2013年6月 イタリア ドロミテにて。

2006年3月末に定年退職しました。自分の人生を意味上から四段階に分けると①女学院中高生徒時代②女学院中高英語教員時代③定年退職後時代④被介護・終末期となります。

愛してやまぬ去りがたき女学院を去り③の時期にいる私は④の時期への心構えを整えながら、今の完全自由を最大限に利用して幸せに暮らしています。

退職後に心に決めたことは、40年以上も心身を浸した女学院精神を基盤にしつつも、女学院から親離れしそこに未練を残さず生きていくということでした。退職後は文藝活動を再開

しようと思っていました。「創作」作業は昼夜を分かたず、職業生活とは両立できず、棄てていたので。

正岡子規・斎藤茂吉などを継ぎ写生・写実を旨とする「新アララギ」派での短歌活動が今の自分の創作活動になっています。そこで教えを受けつつ日々充分な時間の中で作歌活動をし、毎月全国誌・ネットを通して発表し続けています。

在職中から続けている庭創りも楽しく、年中庭作業をして咲かせる喜びを満喫し、「庭は我が画布」と自画自賛しながら季節を噛みしめています。

内外の旅行も気の向くま道を進む事となり、その後に賜ったのが正藍染だったのです。

私の転機にはいつも最高の指導者、助力者がいました。貧しい自分の力だけでは何一つ出来なかつたでしょう。

中でも一番の援けは神です。「勇気をもって雄々しく職務を実行せよ。恐れるな。神なる主はあなたと共にいて、決して捨ておかず、主の神殿に奉代する職をすべて果させて下さる。」

歴代誌上 二八章二〇 神に感謝!

最後に。最期までに再会しておくべき人を訪ねて旧交を温めると、また新しい世界が開けていきます。

読書会に加えてもらい、時事・社会・歴史・経済等々苦手の分野を読み、メンバーから学びながら問題意識を無くさないよう努力しています。家事も外出も含め誠に自分らしく生きていくような気がします。

教員生活も比類なき充実期でしたが、今は一生分の自己実現の充実期です。最終段階④の被介護・終末期には如何なる物が待っているのか、全てを神に委ねつつ、年々老いながら眼差しを前に注いでいます。

まに。最期までに再会しておくべき人を訪ねて旧交を温めると、また新しい世界が開けていきます。

プロフィール
17才で染色に出会う。その後染色作家として創作活動を続け、光風会、日展、中美、国文化賞、日本現代工芸賞など受賞多数。
現在は日本工芸美術家協会評議員として、又「藍と愛の会」代表として活躍。
2011年に女学院大学に作品5点を寄贈。

同窓会バザーのお礼

11月3日、中高文化祭日に開催されました。生憎の雨でしたが来場者も多く、同窓会館のカフェテリアにも多数のお客様においで頂きました。献品等のご支援に感謝致します。収益は同窓会本部活動費、及び一部平和祈念式口座繰入金に当てさせて頂きます。(バザー委員長 中村慶子)

震災、その後の報告

あつ！地震だ!! 車のハンドルを力いっぱい握り締めて大暴れする大地に放り出されないように耐えたあの日3・11から2年7ヶ月、11月3日東北は沸きあがりました！泣きました！あの思いの籠もった楽天イーグルスの日本シリーズ優勝に！

その節には、皆様からまた世界の各地から暖かいお言葉や応援メッセージを頂き、沢山のご支援を誠に有難うございました。

さて、現在の宮城県の被災地の様子ですが、想像を絶する量の瓦礫の処理はほぼ終わり、痛ましい姿は太平洋に繋がる広大な平地の景色に変わりました。肝心の復興に関しましては、漁業や商業は一步一步活気を取り戻しつつあるものの全

般的には難問が山積して足踏み状態のように見受けられます。真に海を愛する漁師の願う漁業のやり方と行政の漁業計画の食い違い、海水による農地の荒廃のために減少する農業人口の問題、自治体による復興住宅計画とそれに合意出来ない住民との問題、さらには東京五輪も加えて益々募る資材の高騰や人手不足の問題等々困難を極めていると思います。

私が復興に関して大変残念に思うことは、あの南三陸町の防災対策庁舎が取り壊されようとしていることです。それは、もしあの時、原爆ドームが取り壊されていたらしたらどんな広島どんな世界になっていたでしょう?!後世への遺産の意義を今更ながら強く感じている次第です。(宮城支部 上田 郁子)

同窓生は今
生きてる藍よ、いつまでも!
館村 秀子 (英文1回)

世界で一番美しい日本の藍、古式灰汁醗酵建正藍染。今絶滅寸前なのです。昔のように身近に、子供から老人まで持つて貰い、生命の色をすべて伝えて根付かせる!これが今私の願っている最後の捧物です。



平成25年4月「藍と愛の会」として有志と共に発足の公民館から活動を始めまし

からは何をやっても英語が必要との父の勧めで、美大へ進む前に、まず英文科へと入学致しました。

その後二転三転、神の御意志か、自然に染色作家の

2014年 ホームカミングデーのお知らせ
テーマ: よりそう愛
日時: 2014年4月26日 (上) 10:30~13:30
場所: リーガロイヤルホテル広島
会場費: 8,000円

2014年 ホームカミングデー実行委員

当番学年	短大13	大英14
高校14	短大23	
高校24	文日6	
文英6	短大35	
高校36	文日18	
文英18		

お問合せ: 同窓会事務局
TEL・FAX 082-221-1059
同封のチラシをご参照ください